

岡山県障害者（児）施設サービス自主評価結果（公表用）

施設名：ワークプレイスマにわ

施設所在地：岡山県真庭市高屋376番地1

施設種別：就労継続支援B型

運営主体：社会福祉法人 慶光会

施設長名：守屋 史一

評価月日：令和6年3月29日

評価項目（中項目）	評価結果
I-1 理念・基本方針	評価：B 法人の理念・基本方針は年度当初の全体職員会議での確認と、ホームページ・パンフレット等による周知を図っている。
I-2 計画策定	評価：B 事業所の課題や役割を基に、中・長期的な目標を掲げ、計画を策定した。現状を分析し問題を明確化することで、具体的な解決策を検討し実践している。利用者や家族への分かりやすい説明に関しては不十分である。
I-3 管理者の責任とリーダーシップ	評価：A 福祉サービスの質の向上に向け、課題があれば職員を招集しミーティングを開催した。必要時は関連機関へミーティング参加を依頼するよう助言を行い、より良い実践につなげた。 その他、業務の効率化とともに、職員の声を聞く姿勢を持つなど、更なる働きやすい職場環境作りにも取り組んだ。
II-1 経営状況の把握	評価：A 法人の経営状況については法人本部からの情報収集や確認を行った。また、毎月開催している管理職会議でも本部からの経営状況の報告を受け、法人全体と事業所の状況把握に努めた。その他、現状のニーズを把握する為、多面的に情報収集を行った。今後はコスト分析、コスト意識を職員に周知していくことが課題である。
II-2 人材の確保・養成	評価：B 法人では定期的に人材確保の取り組みが実施されている。職員のスキルアップの為、法人内研修の参加や、より専門的な知識の向上のための事業所内の勉強会も開催した。

II-3 地域との交流と連携	<p>評価：B</p> <p>感染防止の観点から、地域ふれあい祭りや福祉運動会など地域交流としてのイベントの開催はなかったが、地域行事への参加を行った。</p>
III-1 利用者本位の福祉サービス	<p>評価：A</p> <p>全職員が人権擁護、虐待防止に関するセルフチェックを行い、その結果を基に日々の実践の振り返りを行った。法人主催の虐待防止研修へも参加し、人権擁護について考える機会となった。利用者の思いを引き出すコミュニケーションの方法、利用者の様々な思いを実現していく等については今後の課題である。</p>
III-2 サービスの質の確保	<p>評価：B</p> <p>支援記録システムを活用し、利用者の日々の状況の共有を行った。その他、支援員会議・ケース会議等で情報や今後の取り組みを共有し、支援の統一化をすることで質の向上を図った。</p>
III-3 サービスの開始・継続	<p>評価：A</p> <p>サービス開始時には契約書、重要事項説明書等の資料を提示し、分かりやすく丁寧な説明を行った。また、ホームページ・パンフレット等でも法人及び事業所の概要を掲載している。サービス内容についても分かりやすく丁寧な説明を行った。</p>
IV-1 利用者に応じた個別支援プログラム	<p>評価：B</p> <p>定期のモニタリングや本人・ご家族の意向の聞き取りを基に個別支援計画を策定し、説明したうえで承諾を得ている。ご家族とは電話等により情報共有を行った。</p>
IV-2 日常生活支援サービス	<p>評価：B</p> <p>昼食希望者には管理栄養士が栄養バランスに配慮した献立の食事を提供している。献立については利用者の方には事前にお知らせしている。</p>
V-1 生活環境の整備	<p>日中活動事業所のため、非該当。</p>
VI-1 緊急時の対応	<p>評価：B</p> <p>法人で災害時BCP、感染症対応BCPが策定され、有事の際は各BCPに沿って行動できるよう整備された。有事に際し迅速に対応できるよう、年1回の避難訓練を実施した。</p>
VII-1 就労意欲の醸成	<p>評価：B</p> <p>安定して作業が出来るよう、配置等を考慮した。また、労働成果が見える取り組みも行い、労働意欲の向上に取り組んだ。衛生管理を重点課題として品質管理にも取り組んだ。</p> <p>一般就労を希望されている方も多いため、関係機関と連携を図り利用者への情報提供を行う事が課題である。</p>

* 着眼点の項目等を参考に、具体的な実施（達成）の状況や、未実施の場合はその理由など評価における根拠とともに、今後の改善計画（方針）なども記載してください。

* VII-1 就労意欲の醸成」欄は、授産施設のみが該当します。